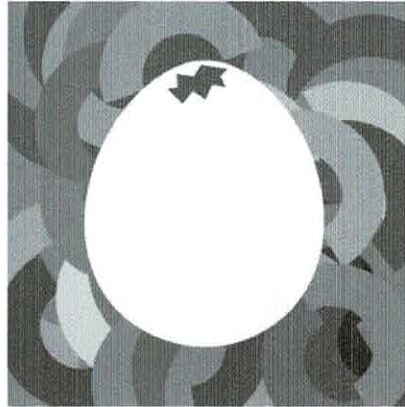


2024年 イースター・メッセージ

〈2024年イースター・メッセージ〉

あの方は死者の中から 復活された

小海 基



(カット・杉本功雄)

【聖句】 マタイ28・11～15

マタイによる福音書によるなら、イースターの最初の知らせは、十字架刑が起きたばかりの、ローマ番兵が厳重に見張っている中で(27章62～66節)、明け方にイエスの墓へ向かった、たった二人のマリアによってもたらされました。二人に主の復活を知らせたのは天使でした。屈強な番兵さえも

震え上がり、「死人のようになっ
ていたなかで、この二人の女性は
気丈でした。「怖れながらも大い
に喜び、……走っていった」(8
節)のです。使徒でもない二人の
マリアが復活の知らせを担ったの
です。

二人にどこまで復活という事態
が呑み込めたのかは分かりませ
んが、この気丈さに復活の主が応
えられたのに驚かされます。なん
と復活の主ご自身が「行く手に立
つていて、『おはよう』と言われた」
(9節)というのです。二人が主
イエスの姿を目の当たりにしても
恐れ震えていたのは主の言葉から
も分かります。それでもガリラ
ヤで会おうという復活の主の言葉
を、二人は弟子たちに伝えること
が出来ました。

この話が示しているのは、復活
を信じる教会という群れに決して
恐れがないわけではないという事
です。直接その始まりを目の当た
りにしても、まだ私たちは震えな
がら伝える役目を担うのです。急
いで、走りながら担うのです。

3年間続いた世界的な「新型コ
ロナ禍」から私たちは立ち上がる
うとしています。教勢も財政の回
復もかつてのようにはいかないの
ではないかと、全国の教会の中に
は悲観論が漂っています。復活の
主とガリラヤから再出発するのだ
と告げられた弟子たちも、はたし
て昔のように五千人、七千人と人
が集まってパンを分かち合う日が
来るだろうかといふかったこと
でしょう。

事実ペンテコステ直後、ステ
ファノの殉教によって起こった迫
害の嵐で、エルサレム教会は散ら
されたと使徒言行録は伝えます。

しかし恐れながらも「復活の証
人」とされた群れは、ガリラヤ伝
道時代よりもはるかに大きく広
がっていったのでした。ペストの
大惨禍から立ち直っていったヨー
ロッパの教会でも、朝鮮戦争から
世界一のキリスト教国へと変わっ
ていった韓国でも繰り返されて
きた。「復活の証人」の教会の歴史
がそうして始まるのです。